

東京2020パラリンピック聖火リレー プレゼンティングパートナーの第一号に決定

株式会社 LIXIL は、このたび、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と「東京 2020 パラリンピック聖火リレープレゼンティングパートナーシップ契約」の第一号として契約を締結しました。

LIXIL は、東京 2020 ゴールドパートナー（住宅設備部材&水回り備品）として、「おもいやりと、おもてなしで、未来を変えよう。」をスローガンに、誰もが暮らしやすい社会づくりに貢献するため、「ユニバーサル・ランクスports義足体験授業」などのさまざまな活動を展開しています。

東京 2020 パラリンピック聖火リレーは、2020 年を契機に共生社会の実現を目指しており、ユニバーサルデザインのものづくりに注力してきた会社として LIXIL が推進してきた多様性の理解を深める活動も、それらと想いを同じくするものです。



画像提供：Tokyo 2020

また LIXIL は、東京 2020 パラリンピック聖火リレートーチの「素材の製造」を担当しています。役目を終えた東日本大震災の被災地の仮設住宅の窓などを再利用し、パラリンピック聖火リレートーチの素材として提供することで、たくさんの想いを形にして残し、未来へとつないでいきます。

今後 LIXIL は、東京 2020 パラリンピック聖火リレーのコンセプト「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」のもと、パラリンピック聖火ランナー募集をはじめとしたさまざまな企画を実施し、東京 2020 パラリンピック聖火リレーの成功に貢献していきます。

LIXIL 東京 2020 パラリンピック聖火リレー特設サイト：https://www.lixil.co.jp/feel_the_moment/paralympic_torch

<公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 会長 森喜朗氏>

株式会社 LIXIL を東京 2020 パラリンピック聖火リレーのプレゼンティングパートナーとしてお迎えできることとなりました。LIXIL は住まいに関わり暮らしに寄り添う企業として「ユニバーサル・ランクスports義足体験授業」を展開し、全国の子供たちに共生社会を体現する場を提供いただいています。東京 2020 パラリンピック聖火リレーを通じて、ユニバーサル社会の実現につながる一端を担っていただけると大変期待しております。

<株式会社 LIXIL 代表取締役会長 瀬戸欣哉>

このたび、東京 2020 パラリンピック聖火リレーのプレゼンティングパートナー第一号になることができ、大変光栄に思います。LIXIL は、子どもからお年寄りまでひとりひとりが豊かで快適な住生活を送ることができる「ユニバーサル社会」の実現を目指し、東京 2020 ゴールドパートナー（住宅設備部材&水回り備品）としてさまざまな活動を行っています。東京 2020 パラリンピック聖火リレーにおいても、「おもいやりと」「おもてなし」の心をもってより多くの希望を届けられるよう、全社一丸となって取り組んでまいります。



<参考資料>

■東京 2020 パラリンピック聖火リレーについて

東京 2020 パラリンピック聖火リレーは、2020 年を契機に共生社会を実現すべく、人と人、人と社会との、「新しいパートナーシップ」を考えるきっかけとなることを目指します。

東京 2020 パラリンピック聖火リレーを体現するのは、3 人 1 組のランナーで、原則として「はじめて出会う 3 人」がチームになってリレーを行います。パラリンピック聖火リレーをきっかけとして生まれた新しい出会いが、共生社会へつながる新しい気づきを与えてくれることを期待させてくれます。

コンセプト：「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」

開催期間：2020 年 8 月 13 日（木）～ 8 月 25 日（火）

東京 2020 公式ウェブサイト：<https://tokyo2020.org/jp/special/torch/paralympic/>

■東京 2020 パラリンピック聖火リレートーチについて

東京2020パラリンピック競技大会の聖火は、コンセプト「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」のもと、パラリンピックを応援する全ての人の熱意を集めて、2020年8月に東京で生み出されます。東京2020パラリンピック聖火リレートーチは、パラリンピックに参加し、支え、そして応援する全ての人の気持ちを束ねる象徴となります。

◆ 復興への想いと持続可能性への配慮

東京2020パラリンピック聖火リレートーチの素材の一部には、役目を終えた東日本大震災の仮設住宅の窓などを再利用しています。人々の生活を見守ってきた仮設住宅が、平和のシンボルとしてパラリンピック聖火リレートーチに姿を変え、一歩ずつ復興に向けて進む被災地の姿を世界に伝えます。

<LIXILが実施したパラリンピック聖火リレートーチ素材製造の流れ>



まず、供与期間が終了した仮設住宅のアルミ建材を回収するために、管理する自治体に申し出を行い、許可を得た上で、対象となる仮設住宅を協議・決定しました。そして、解体を担当する地場業者と連携しアルミ建材の回収を実施しました。

その後、被災三県（岩手県・宮城県・福島県）の仮設住宅824戸から窓・ドア・風除室などのアルミ部分を回収しました。取り付け用のビスなどは、仮設住宅の窓などに使われているアルミとは素材が異なるため、品質に影響が出ないように全て除去し、取り扱いしやすい形にプレスして、素材の製造工場に輸送しました。

パラリンピック聖火リレートーチの素材製造は茨城県にあるLIXIL下妻工場で行われました。下妻工場は、LIXILのアルミサッシ建材の生産拠点の1つで、東日本大震災で被災したものの、迅速に復旧し仮設住宅の窓などを生産しました。下妻工場では、被災地から運ばれた仮設住宅の窓などを熔解し、成分分析を行った後、ビレット（金属塊）を鋳造しました。

◆ 伝統と現代技術の融合

東京2020 パラリンピック聖火リレートーチは、日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフとしており、その伝統的な形を新幹線の製造にも使われている製造技術を用いて形作っています。継ぎ目のないひとつなぎのトーチとして、日本の伝統と高い技術力がひとつになることで生み出された、東京 2020 パラリンピック聖火リレーを象徴するかたちです。



◆ 美しく、燃え続ける炎

東京2020パラリンピック聖火リレートーチは、聖火の形もデザインされています。花びらから生み出された5つの炎は、パラリンピック聖火リレートーチの中央でひとつとなり、より大きな輝きで「希望の道」を照らします。聖火を灯す燃焼部には、聖火を保ち続けるために、火力の強い青い炎と、火のない燃焼（触媒燃焼）の2つの燃焼が、聖火の赤い炎を支える仕組みが採用されています。

◆ 全ての人のための東京2020パラリンピック聖火リレートーチ

東京2020パラリンピック聖火リレートーチは、重さや握りの形状にも配慮しています。年齢や性別を問わず、誰にとっても扱いやすいトーチです。

◆ 東京2020パラリンピック聖火リレートーチの仕様

全長：710mm

重量：1.2kg（本体約1 kg、燃料部200 g）

色：桜ピンク

主な素材：アルミニウム（仮設住宅由来の再生アルミニウム約30%を含む）

■ LIXILのユニバーサル社会の実現に向けた取り組み

LIXILは、東京2020ゴールドパートナー（住宅設備部材&水回り備品）として、誰もが個性と能力を発揮し、お互いを尊重しながら生き生きと暮らすことが出来る「ユニバーサル社会」の実現を目指し、「モノ」と「心」の両面からユニバーサルデザインを推進する活動を進めています。

● 「ユニバーサル・ラン<スポーツ義足体験授業>」

LIXILは、自分とは違う他者への理解を深めることを目的とした、「ユニバーサル・ラン <スポーツ義足体験授業>」を、2017年4月よりスタートしています。「スポーツ義足の体験」と「座学」を通じ、義足を使いこなすことの難しさを体感したり、義足使用者のリアルな経験談に触れたりすることにより、子どもたちが多様性への理解を深める機会となっています。また本プログラムは、東京2020公認教育プログラムに認定されており、これまでに13,500人以上が体験しています。

※2019年9月末時点



● LIXILのユニバーサルデザイン

LIXILでは、長年、子どもからお年寄りまでひとりひとりが豊かで快適な住生活を送れるよう、さまざまな視点からアイデアを取り入れた製品やサービスを作り出してきました。キッチン「ウエルライフ」もそのひとつです。車いすを使う方や、立ち仕事をつらいと感じる方が座った姿勢のまま、快適に料理ができるよう考えられています。



【LIXIL東京2020オリンピック・パラリンピック特設サイト】 https://www.lixil.co.jp/feel_the_moment/